

複雑・複合化した個別課題の支援における主な課題

地域住民・団体

明らかではない ↑↑↑

支援ニーズ

相談 ↓↓↓ 明らか

福祉的な課題を抱え、犯罪や非行をした人



地域活動の支援、福祉学習の推進等

課題1

地域からのゴミ屋敷等の相談は、対象者が支援を拒否している場合もあり、つなぎ先や対応制度が明確でないため、当初受け止めた窓口が抱え込まざるを得ず、課題が深刻化する可能性がある。

地域課 (総合相談窓口)

民生児童委員

教育関係

課題2

課題に対応する地域住民にとっては、支援機関からの情報が得られないため、課題に関することで不安や負担感が解消されないといった課題がある。

市社協

地域課題

町会等

いくしあ

福祉事業所

医療機関

各相談支援機関

南北HWC各課等

課題3

各支援機関では、担当分野以外の課題を見過ごす可能性や、それぞれで情報共有等の連携ルールが異なることで、他機関と連携が十分にははかられず、課題解決につながらない可能性がある。

地域包括支援センター

委託相談支援事業所

子ども福祉課

いくしあ

保健福祉センター各課窓口

福祉相談支援課

保護課

障害者支援課

地域保健課

成年後見等支援C

いくしあ (サテライト)

ハローワーク

就労準備支援事業者

学習支援事業者

課題4

各支援機関では、本人や世帯が抱える複数の課題ごとに、関係機関との連絡や役割分担等の調整の負担が課題となっている。

保護観察所

地域定着支援C

寄り添い弁護士

支援会議

専門機関のネットワークの拠点



各地域振興C

地域のネットワークの拠点

課題10

地域の個別の課題に対応した地域福祉活動を推進するためには、市と市社協の把握する様々な情報の共有、活用が必要となる。

課題6

福祉制度が専門分化していることや職員の人事異動等もあり、複雑・複合化した課題に対応するための、知識・経験、ノウハウの蓄積が課題となっている。

南北保健福祉C

課題7

6地区に福祉事務所を配置していた時代に比べ、保健福祉センターと地域の支援関係者(民生児童委員等)との間に距離感があり、連携が課題となっている。

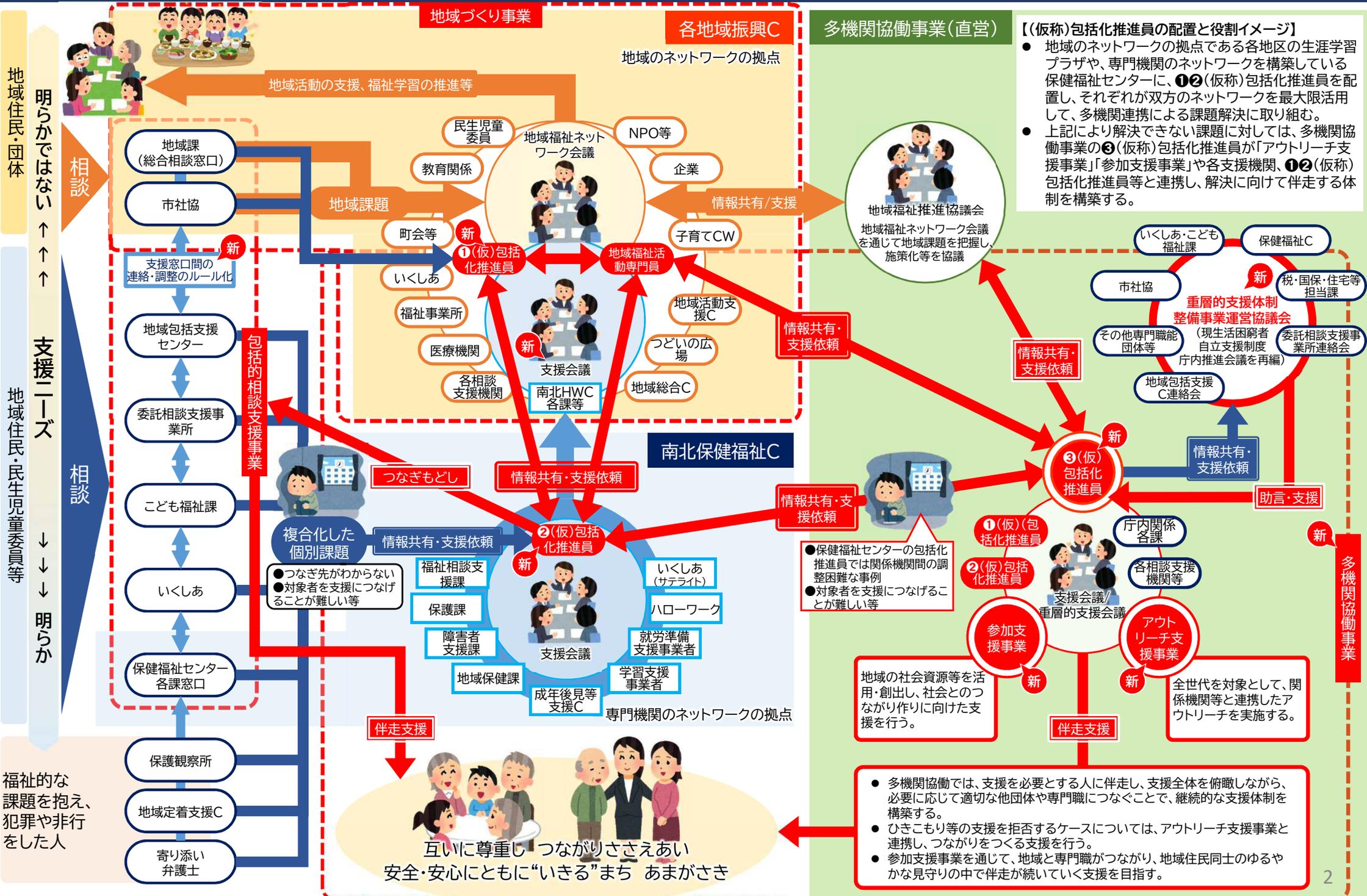
課題8

また、既存の支援制度では解決できない個別ニーズに対応した社会資源の把握や、つなぎための支援が課題となっている。

課題9

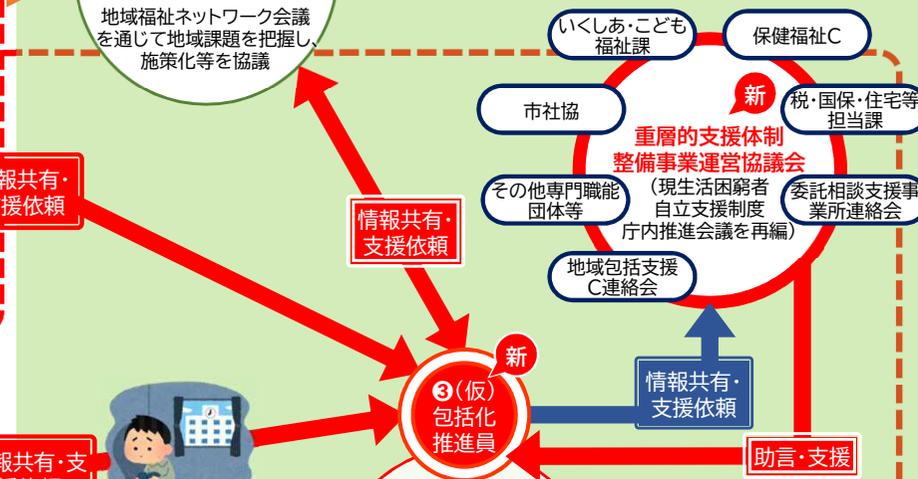
既存の支援機関では、支援ニーズが明らかな対象者へのアウトリーチに追われ、ひきこもり等の支援ニーズが明らかでない対象者へのアウトリーチが課題となっている。

重層的支援体制整備事業イメージ図(たたき台)※既存の取組を中心とした整理



【(仮)包括化推進員の配置と役割イメージ】

- 地域のネットワークの拠点である各地区の生涯学習プラザや、専門機関のネットワークを構築している保健福祉センターに、①②(仮)包括化推進員を配置し、それぞれが双方のネットワークを最大限活用して、多機関連携による課題解決に取り組む。
- 上記により解決できない課題に対しては、多機関協働事業の③(仮)包括化推進員が「アウトリーチ支援事業」「参加支援事業」や各支援機関、①②(仮)包括化推進員等と連携し、解決に向けて伴走する体制を構築する。



●保健福祉センターの包括化推進員では関係機関間の調整困難な事例
●対象者を支援につなげることが難しい等

地域の社会資源等を活用・創出し、社会とのつながり作りに向けた支援を行う。

全世代を対象として、関係機関等と連携したアウトリーチを実施する。

- 多機関協働では、支援を必要とする人に伴走し、支援全体を俯瞰しながら、必要に応じて適切な他団体や専門職につなぐことで、継続的な支援体制を構築する。
- ひきこもり等の支援を拒否するケースについては、アウトリーチ支援事業と連携し、つながりをつくる支援を行う。
- 参加支援事業を通じて、地域と専門職がつながり、地域住民同士のゆるやかな見守りの中で伴走が続いていく支援を目指す。

互いに尊重し つながりささえあい
安全・安心にともに“いきる”まち あまがさき